



“半日コース”【 城山エコミュージアムツアーのお知らせ 】



テーマ：向原ってどんなところ？

鎌倉みちや大山みちも残っていて、古くは縄文時代からの人々の暮らしがあった。

日時：令和4年10月23日（日） 9：00～12：00（雨天中止）
集合：城山総合事務所ピロティアー（受付8：30～ 開会9：00～）
定員：15名（先着順） 参加費：無料
申込み・問合せ 9/15～10/18まで 城山公民館 TEL 042-783-8194

行程 城山総合事務所・・鎌倉みち起点・・赤坂・・向原畑地灌漑水路跡・・山野・・通水記念碑・・川尻中村遺跡・・高橋家の門・・城山総合事務所

- *1 マスクの着用をお願いします。
- *2 当日、発熱等で体調が悪い場合は、参加をお断りすることがあります。
- *3 新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては事業を中止する場合があります。



(峯の薬師から向原方面を望む)

【常設掲示板】

公民館1階エレベーター横に城山エコミュージアム委員会専用の掲示板を設置しました。企画のお知らせや、活動報告など掲示いたします。



城山検定 解説

答え：水路（U字溝）

向原赤坂下の段丘沿いに水路（U字溝）の跡が残っています。かつて、向原の畑作農家は火山灰土に覆われた畑地を田んぼにできないかと願っていました。昭和20年から、戦後の食糧難と重なり「向原畑地かんがい事業」が行われ、コンクリート製の水路（U字溝）が設置されました。谷ヶ原の発電所の分水槽から引水し、待望の水が水路を流れると、乾いた土地が潤いました。土地柄水田にはできませんでしたが、陸稲が育ち多くの農民に安心と喜びをもたらしたそうです。（長久保 梓）

企画/作成：

相模原市立城山公民館城山エコミュージアム委員会

発行：相模原市立城山公民館
TEL：042-783-8194【直通】
FAX：042-783-1721



ホームページをパソコンで見るとは

相模原市 城山エコミュージアム

検索

相模原市立城山公民館ホームページ <http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kouminkan/shiroyama-k/index.html>



編集後記

長引くコロナの影響を辛うじてかわしながら活動を続けています。今年度のツアーは向原地区を歩く計画ですのでいくつか紹介しています。「どんな所？こんな所？そういう所？」

(金子 直美)

城山エコミュージアム通信

令和4年（2022）8月15日 第42号

エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）を合わせた造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。

川尻中村遺跡の人たちの暮らし



向原西公園



川尻中村遺跡第42号住居址

縄文時代の中期は、縄文文化が最も躍動、発展した時期と考えられています。この時期日本列島の各地に規模の大きな集落がつけられました。旧城山町や周辺にも大規模な集落が数多くつけられています。谷ヶ原遺跡や川尻中村遺跡からは数多くの竪穴住居も発見されています。Aコープの建設に伴う調査では、中期後半の竪穴住居が2軒発見されています。また新小倉橋の建設に伴う調査では中頃から後半にかけての竪穴住居が原東遺跡で24軒、川尻中村遺跡で91軒発見され、県内でも類例の少ない釣り手土器や鉢巻き土偶、土鈴などが発見され注目をあつめました。

川尻中村（向原）にむらがつくられた時代の人々は、地面を1メートルほど掘り窪めた直径5メートルほどの半地下式の竪穴住居に暮らしていました。住居の中央の床には囲炉裏（いろり）がつけられ、4～5人の家族が生活していたと考えられています。遺跡からはたくさんの住居が発見されますが、一時期につくられたのは5～6軒と考えられ、谷ヶ原や川尻中村の人口は20人から30人ほどと思われます。

縄文時代の衣類については、毛皮のほか植物繊維を材料とした布を着用していたと考えられています。また縄文時代の人々は、ひすいのペンダントや狼の牙の勾玉などを身につけていました。

縄文時代の繁栄を支えたのはドングリなどの木の実を栽培して食べていたことといわれていますが、川尻中村遺跡の人々も栗やクルミを栽培していたと考えられます。

(山口 清)

参考文献：『城山風土記』第5号一町の歩みをふりかえるー

城山町史編さん委員会 平成9年3月

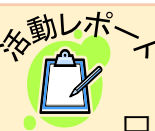


釣り手土器

鉢巻き土偶



今回のトピック ■特集「川尻中村遺跡」■城山探訪「通水記念碑」■しろやまミニ図鑑「クサギ」■城山検定■活動報告「つどい」他■インフォメーション「ツアーのお知らせ」



「令和3年度城山エコミュージアムのつどい」開催

日時 令和4年2月13日（日）13：30～16：00
会場 城山公民館大会議室

活動発表

活動紹介・事例紹介
活動紹介に続き事例紹介として、令和3年10月3日に開催した城山エコミュージアムツアー「新・城山公民館周辺の史跡をめぐる」について説明しました。休憩時間には委員の有志で登った小倉山の展示を参加者の皆さんが熱心に見ていました。



講演 「横浜水道と城山地域」

講師：乾 照夫氏 元東京情報大学教授
内容：

横浜水道は幕末に開港した横浜の水不足を解消するために日本で初めて造られた近代水道施設です。明治20年（1887）、道志川と相模川が合流する三井村の取水所から横浜野毛山の浄水場まで送水した創設工事以来、8回の拡張工事や他の水道関連事業がありました。工事毎に貴重な記録写真や図面、当時の地域の様子などを丁寧に説明していただいたので、漠然としていた水の流れがつながるようになり、この城山地域に今も多く残る水道の歴史に関わる遺産の歴史的価値がより高まりました。



参加された15名の方々とともに城山地域の貴重な歴史の一部を知ることができたことと同時に、城山エコミュージアム委員会が「歴史遺産」を後世に伝えていく担い手としてのやりがいと役割を実感したつどいでした。（金子 直美）



クサギ（クマツヅラ科）

落葉対生の小高木。夏、白い花が咲くと強い香りを辺りに振りまき、誘われたハチやアブが、ブンブン飛び交います。ピンク色を帯び閉じていた萼（がく）は、果期には星状に開いて赤紫色に染まり、中心には青緑藍の実がなっています。

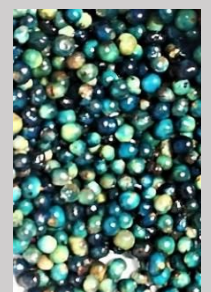
その実が草木染めに利用されると聞き、スマホ片手にクサギ染めに挑戦しました。まずクサギの実を集めなくてはなりません。高い所にあるので、採取には苦労しました。染色は、絹糸とウールの二種で試しました。染まり上がった糸のなんともいえないブルー、美しい自然の色に感動しました。

名前の由来は、枝や葉をちぎると、強い臭気があることによります。似た名前のコクサギはミカン科で、別の種類です。

（多羽田 啓子 絵・写真と文）



クサギの花と果実



クサギの実



染色した糸
左 羊毛 右 絹



城山探訪

【通水記念碑】

向原（川尻1612）厚木城山線沿い原宿山野線が交わる交差点近くに大きな黒い石碑があります。「通水記念碑」と刻まれた石碑の後ろ側に、右に記した碑文が刻まれています。原宿堀の氾濫などの雨水排水や大雨のたびに河川に流れ込む汚水を防ぐ公共下水道の完備が町にとっての最重要事業だったことがわかります。

昨今では異常気象によってか大雨が増え、ますます下水道施設は大切になっています。（田畑 房枝）



碑文

城山町公共下水道供用開始にあたって近年の急速な都市化によって母なる川相模川の水質の汚濁が日に増進しています。この相模川の水質を保全するには下水道の整備が必要です。また下水道は文化のパロメーターといわれています。必要不可欠な施設です。この整備をはかるためには昭和四十四年に神奈川県と相模川流域十一市町によって下水道事業がスタートしました。当城山町はこの事業に昭和四十六年三月に加入して以来積極的に公共下水道の整備を進めてきました。本日流域下水道の到達と同時にその供用が開始されました。ここに通水を記念し水事業を永く後世に伝えるべく記念碑を建立したものです
平成元年十一月十八日
城山町長 北島 厚



城山検定

問題

さて、これは、何でしょう??

（向原の畑の周辺で見られます）

→解答は次のページ



◇令和4年3/5（土）～3/13（日） 城山公民館まつり 出展

コロナ禍のため今年度の公民館まつりは各活動団体の作品展示・活動発表の展示のみの小規模開催でしたが、開催期間が9日間だったこともあり多くの方に見ていただくことができました。本村市長の訪問もあり城山エコミュージアムの活動も多くの方に伝えられた良い機会でした。

◇令和4年4月17日（日）

城山エコミュージアム委員会全体会 開催

定例会、ツアー、つどいなどの年間活動計画が決まりました。さらに、今年度はより多くの方々に興味を持ってもらい一緒に活動していただけるように「掲示板設置」や「特別学習会」など新しい事業にも取り組んでいくことになりました。

◇令和4年5月11日（水）

学習会 開催 テーマ：向原について 担当：樋口 孝治

今年度のエコミュージアムツアーでは「向原地区」を取り上げます。“向原ってどんな所？”をテーマに、縄文時代の遺跡をはじめ向原に残る古道や社、言い伝えなど資料を使って説明しました。

5月18日（水）にはこの学習会をもとにツアーコースの下見をしました。

◇令和4年6月1日（水）

学習会 開催 テーマ：ナラ枯れについて 担当：塩谷 弘道

昨年頃からあちこちの山や公園などでコナラやカシなどのブナ科の広葉樹が枯れる現象（ナラ枯れ）が問題になっていることを取り上げ、ナラ枯れのメカニズムを勉強しました。